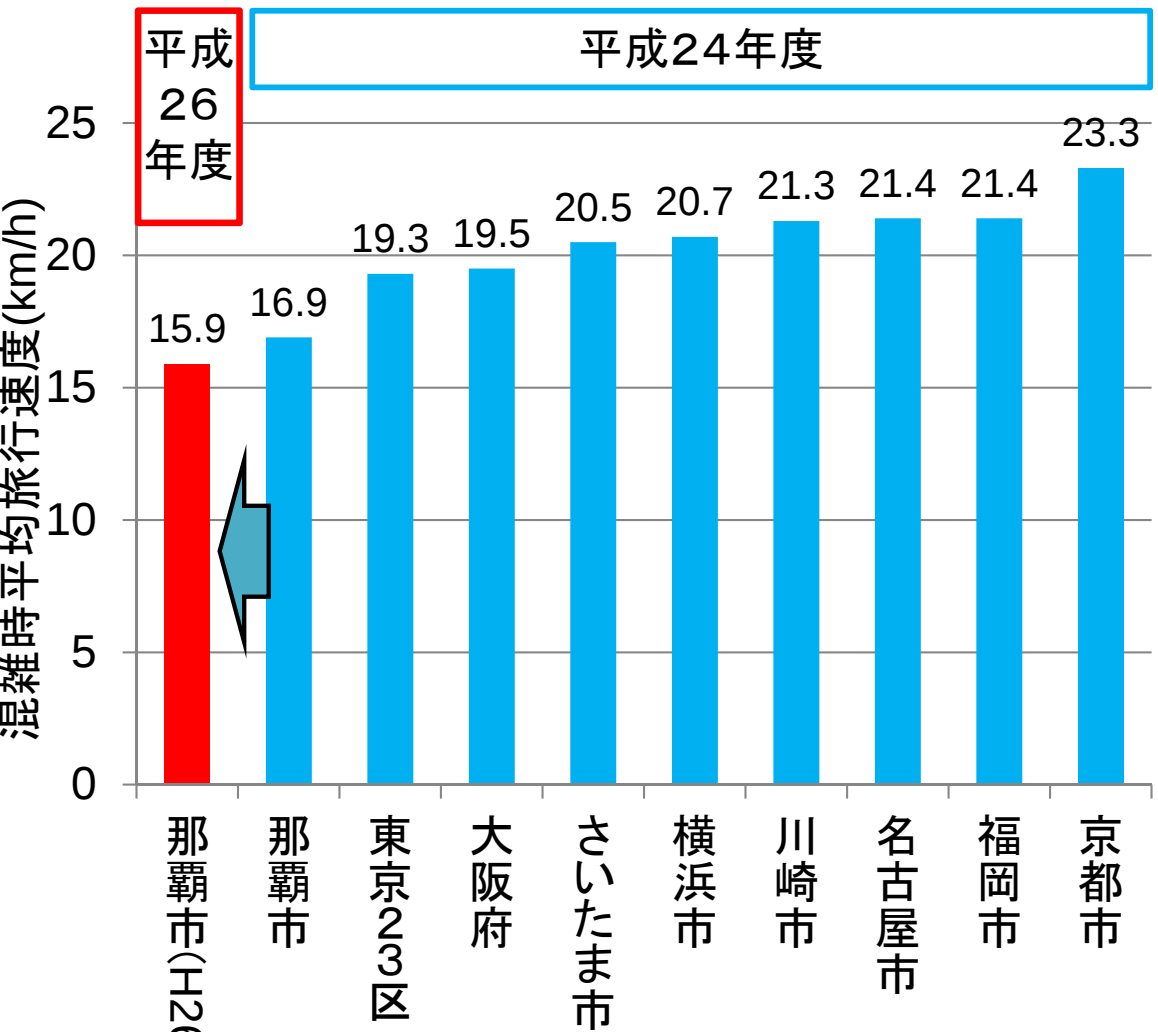


道路交通の状況

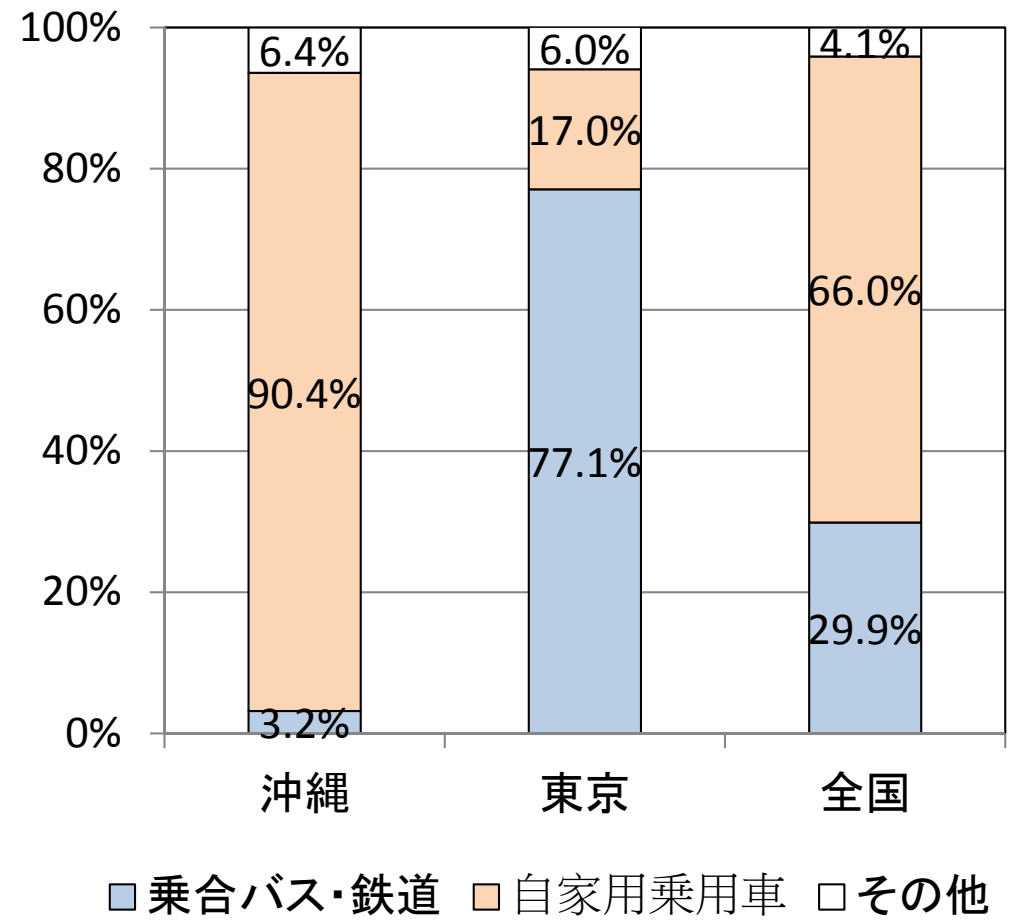
沖縄総合事務局

◆平日混雑時旅行速度の比較



出典：H26一般車プローブデータ(那覇)、
H24一般車プローブデータ

◆機関別旅客輸送分担率



出典：旅客地域流動調査(H21年度)

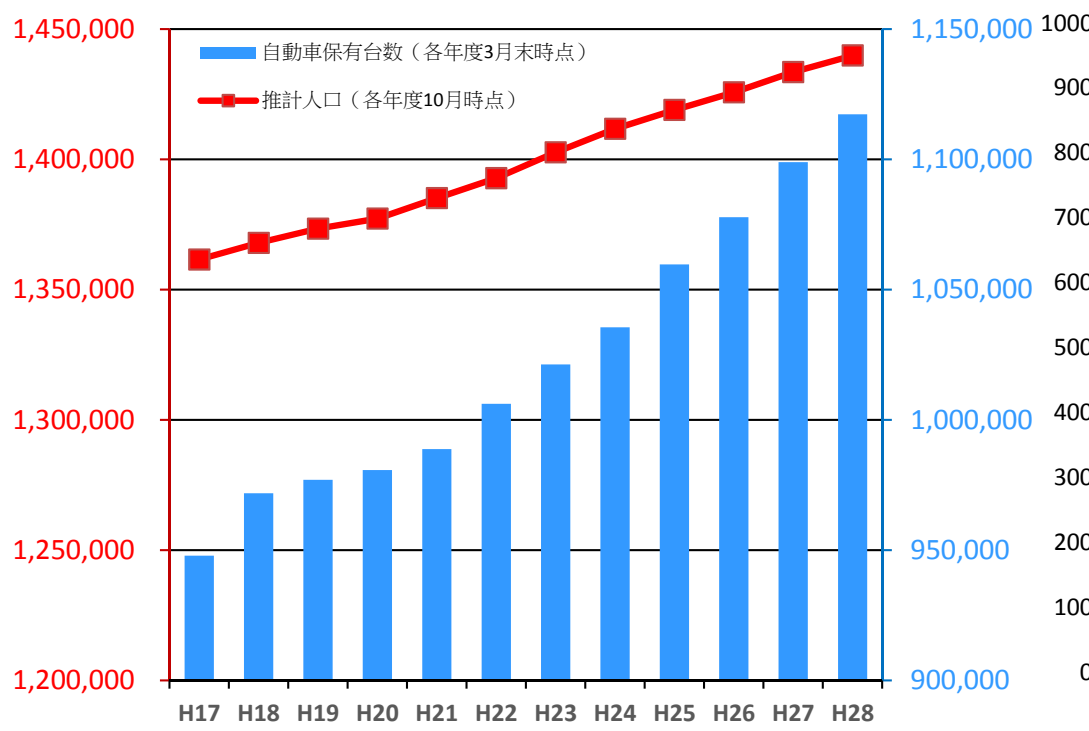
沖縄総合事務局
内閣府



現状：沖縄県自動車保有台数等の推移

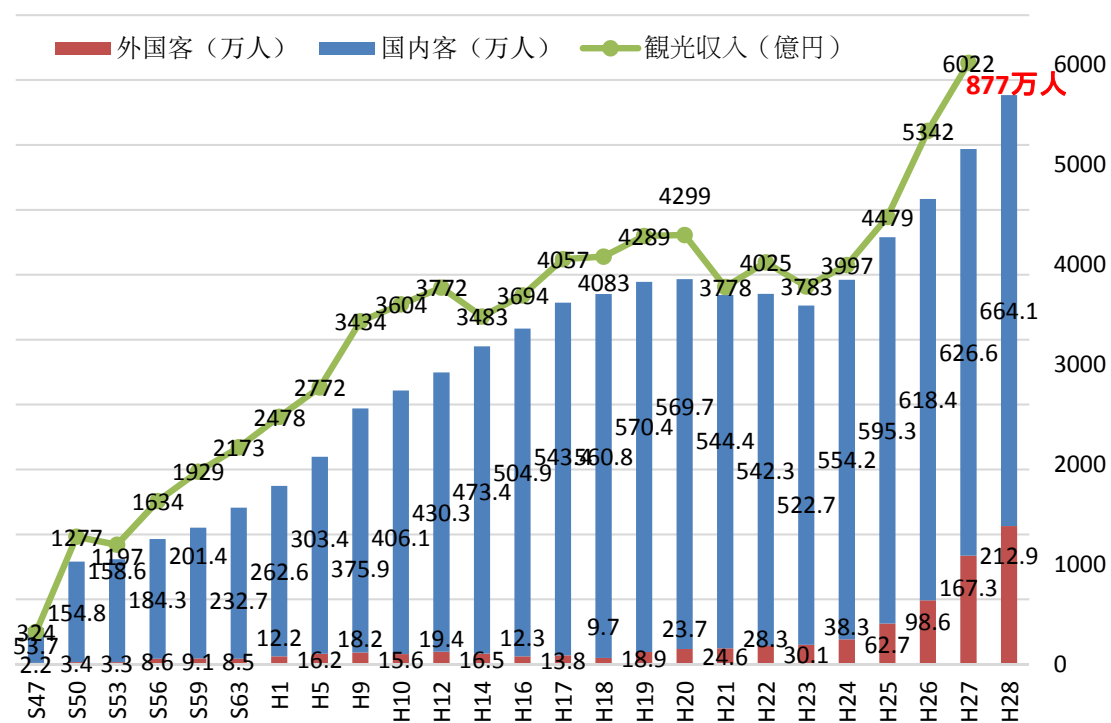
○自動車の保有台数や観光客数も年々増加しています。

◆沖縄県の人口増加に伴い、自動車保有台数も増加



【沖縄県の推計人口と自動車保有台数の推移】
資料：沖縄統計年鑑、沖縄県推計人口データ

◆年度別観光客数・観光収入の推移

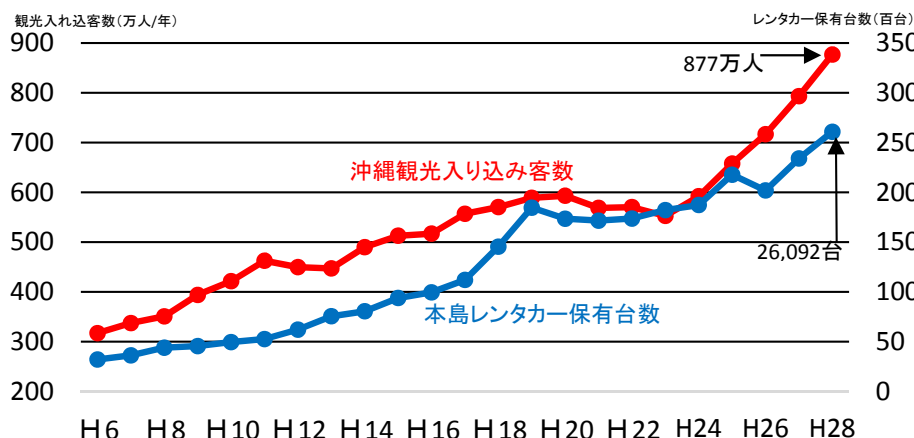


【観光客数・観光収入の推移】
資料：沖縄県入域観光客数統計概況、観光収入

現状：観光客の移動手段

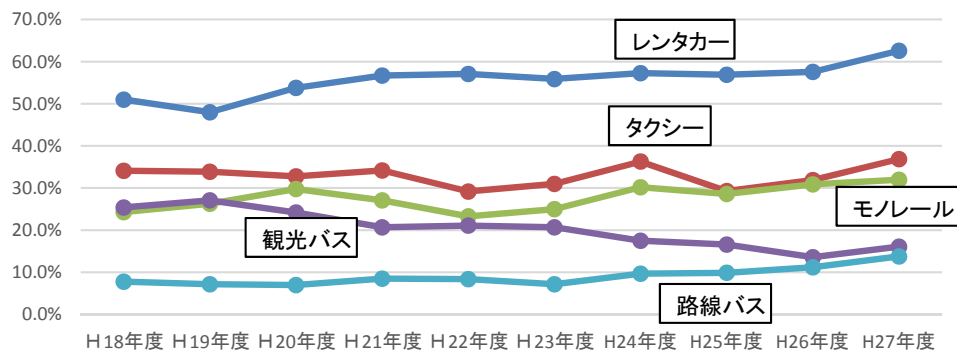
- 平成28年度に沖縄を訪れた観光客は約877万人（うち外国人約213万人）で過去最高を記録。
- 沖縄へのクルーズ船の寄港は平成28年は387回であり、平成29年は529回と過去最多の見込み。そのうち那覇港は228回、石垣港は141回、平良港は132回となり各港とも過去最多の寄港見込み。

◆観光客の移動手段はレンタカー（約6割）



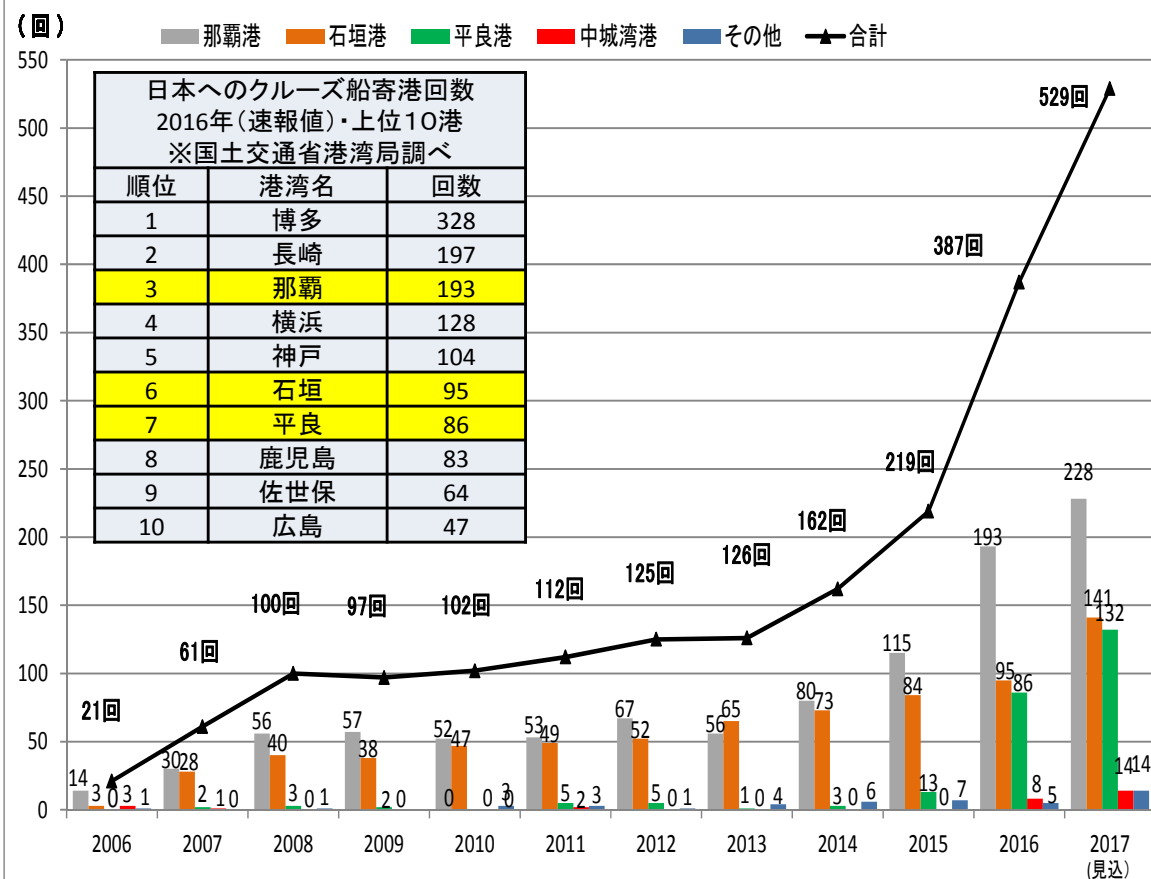
【県外観光入込客数とレンタカー保有台数の推移
資料：運輸要覧、入域観光客統計概要】

【沖縄県滞在中に利用した交通手段】



出典：沖縄県「観光統計実態調査(H18～H27年度)」

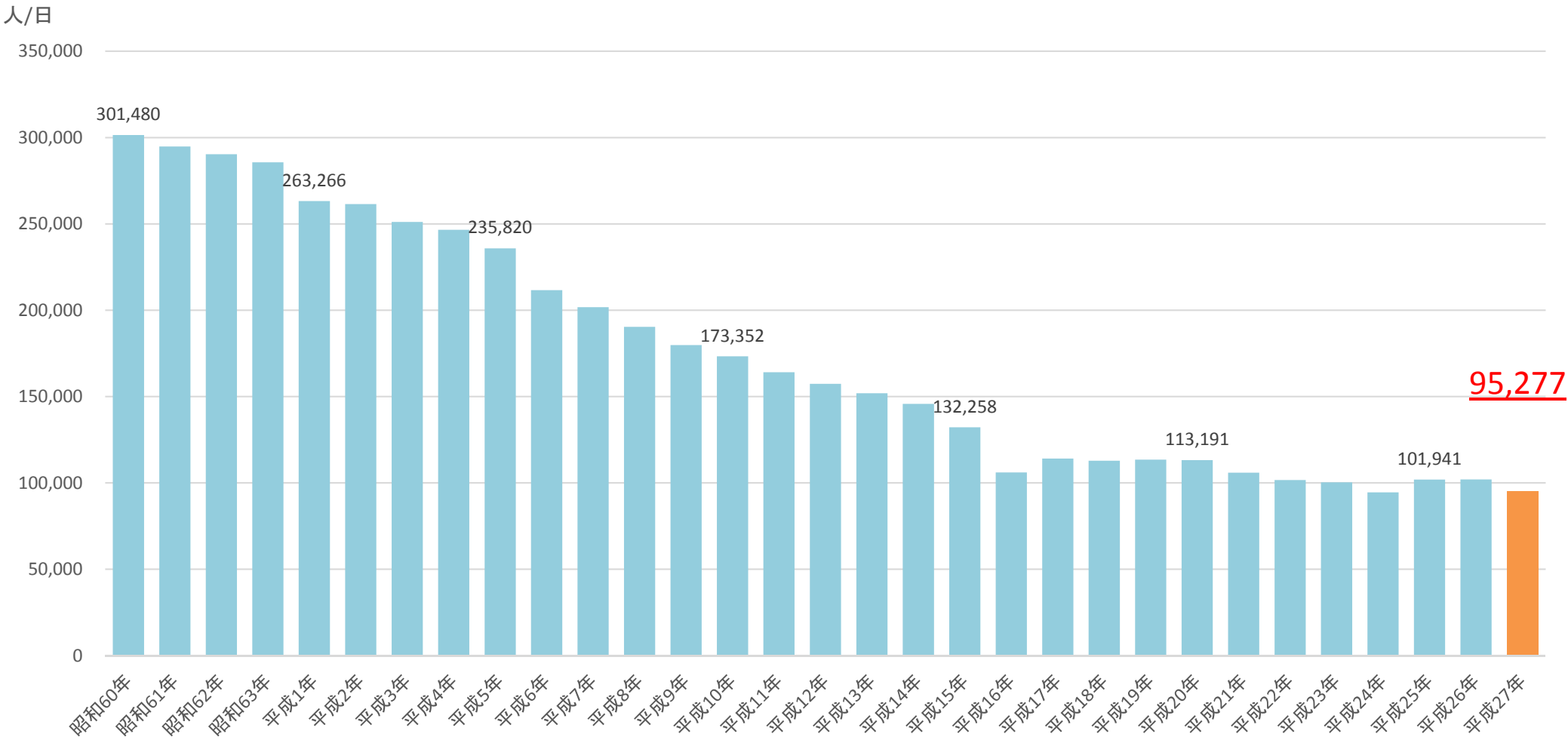
【沖縄へのクルーズ船の寄港回数の推移】



※2017年4月30日時点。天候等により変更の可能性がある。
※港湾管理者(沖縄県、那覇港管理組合、宮古島市、石垣市)からのヒアリングに基づき沖縄総合事務局が作成。

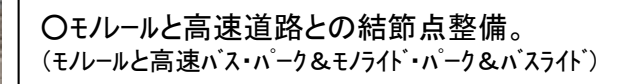
公共交通（バス）の利用者数の経年推移

▶ バス輸送人員は、昭和60年と比較して、平成27年には約1/3に減少



資料：沖縄総合事務局運輸要覧（S60～H28. 12）

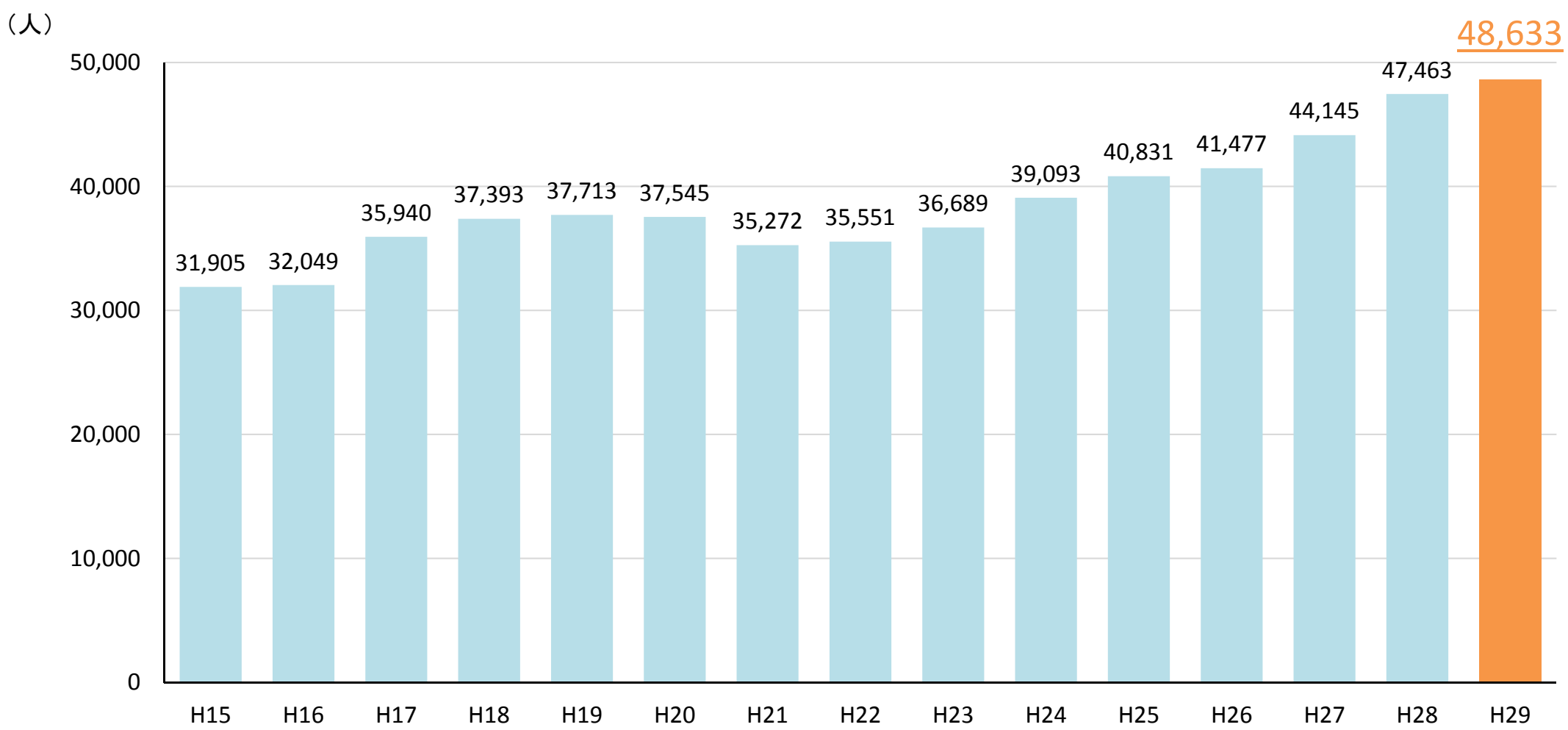
○現在、首里駅から沖縄自動車道西原インター付近までの約4.1km、4駅を延長工事中。(平成31年春の開業目標)



7

公共交通（モノレール）の利用者数の経年推移

- ▶ 沖縄都市モノレールは、観光客の増加に伴い利用者も増加
- ▶ 乗客数は平成29年4月末日時点で4.9万人



資料：沖縄県都市モノレール課HP
駅別乗客数 年度比較表（1日当たり平均）H29. 4月末日現在より合計値を抜粋

共通IC乗車券の導入

沖縄都市モノレール(株)と沖縄本島バス事業車4社が平成27年4月に共通IC乗車券を導入。

モノレールは26年10月から先行導入済



IC乗車券：名称「オキカ」

基幹バス構想

定時運行と利便性向上のため国道58号（那覇市～沖縄市）において、平成31年度を目途に基幹バスを導入する構想がある。現在は、バス専用レーンの拡大等について調整中。



那覇バスターミナル地区の再開発

安全・快適な街づくりの一環として交通結節点機能を強化するため、バスターミナル地区の再開発事業が進められている。

バスターミナルは1階。平成30年度開業予定。



『2環状と7放射道路』の整備 H28年度現在



道路整備の取組み：経路の分散（ハシゴ道路）

■南北を走る強固な「3本の柱」

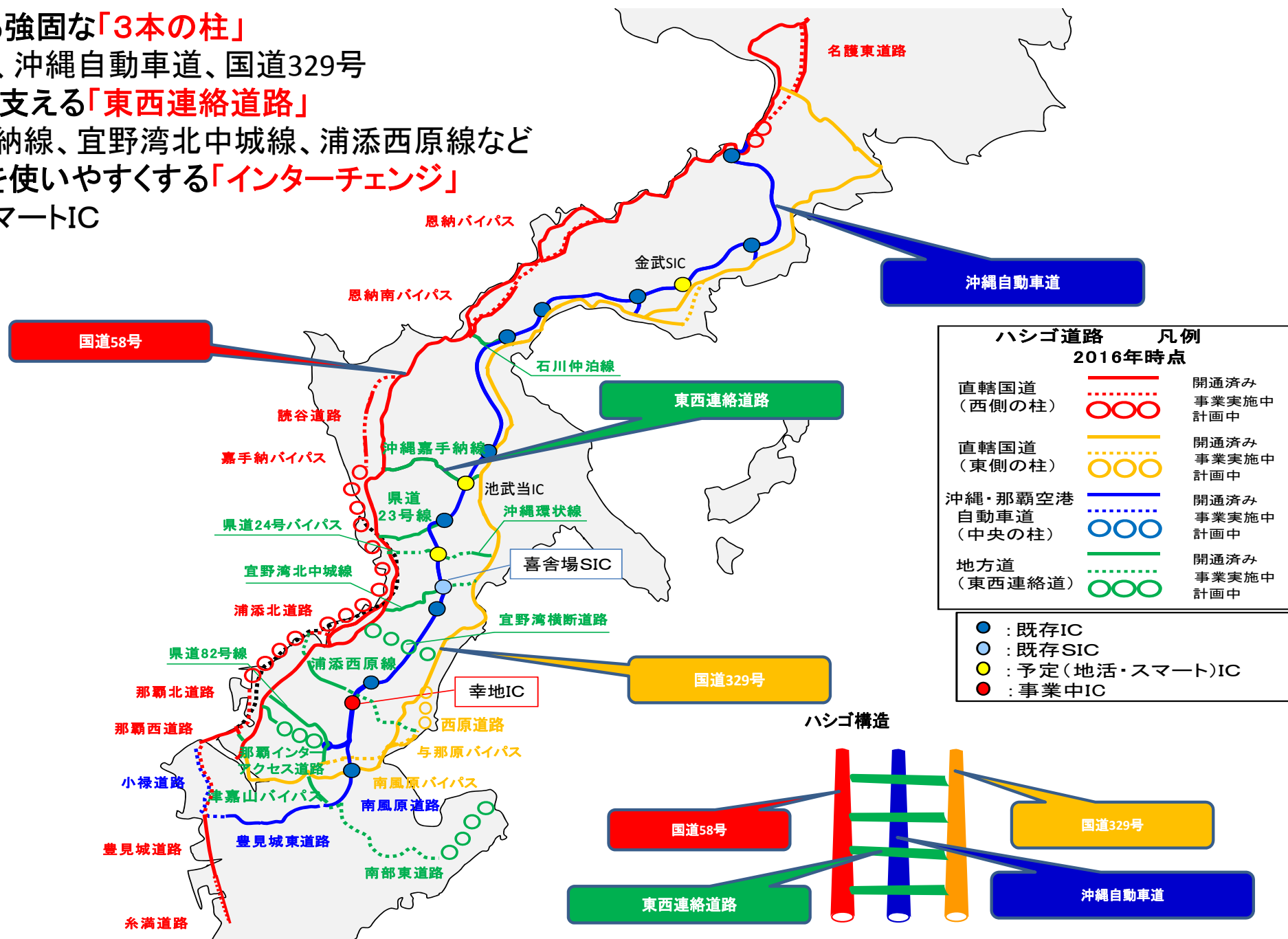
国道58号、沖縄自動車道、国道329号

■3本の柱を支える「東西連絡道路」

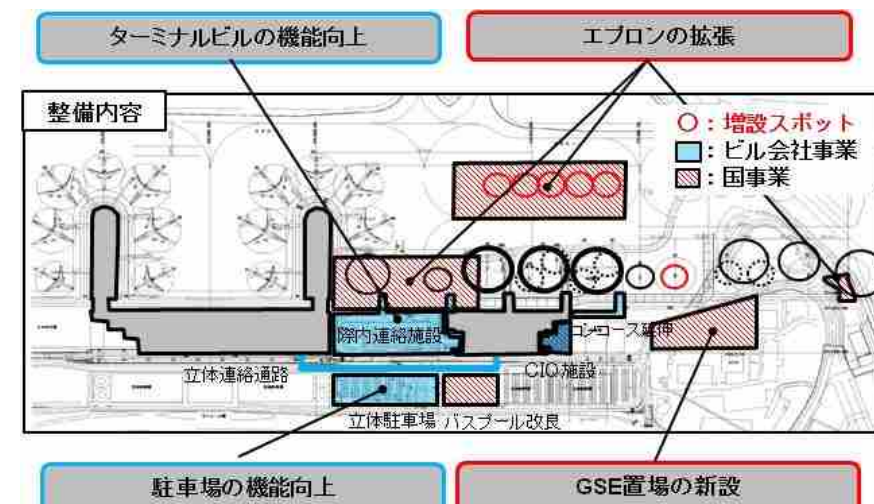
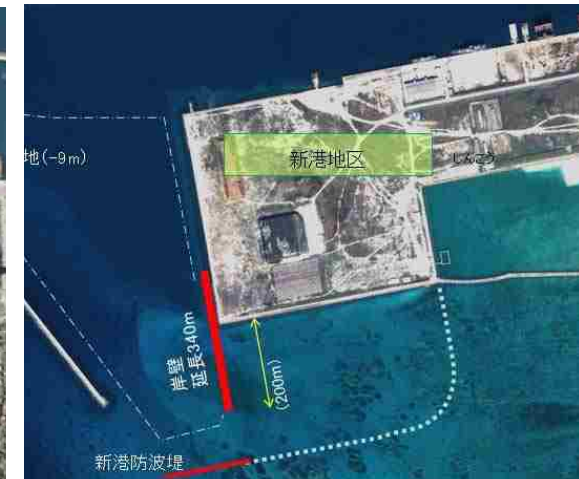
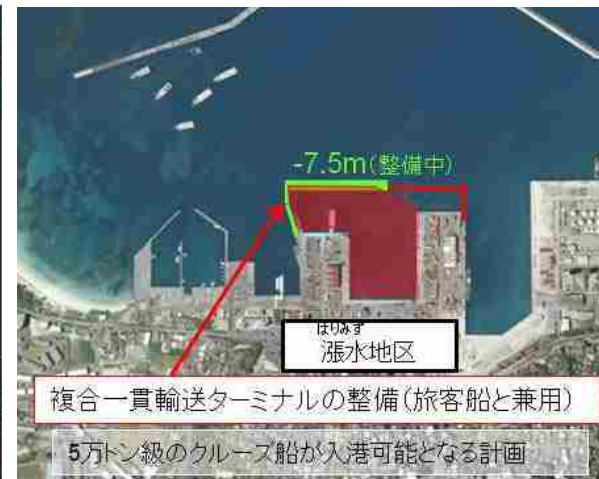
沖縄嘉手納線、宜野湾北中城線、浦添西原線など

■高速道路を使いやすくする「インターチェンジ」

喜舎場スマートIC



- 那覇港・平良港・石垣港では、岸壁の拡張整備、新たなクルーズバースの確保などにより寄港増・大型化に対応。
○那覇空港滑走路増設事業は、平成32年3月末の供用に向けて整備を着実に推進。



プロジェクトマップ（主要施設の供用）

◆浦添北道路・臨港道路浦添線（平成29年度開通予定）

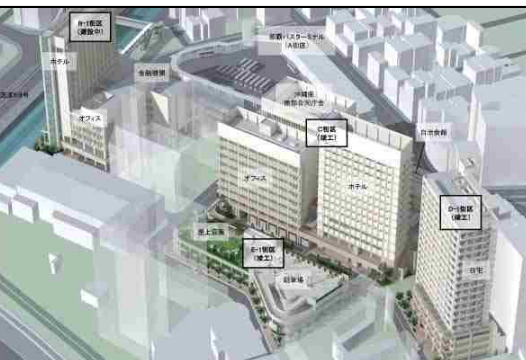


◆那覇港総合物流センター（Ⅰ期）（平成30年度供用予定）



出典：那覇港総合物流センター基本設計報告書
（平成25年度 那覇港管理組合）

◆那覇バスターミナル（平成30年開業予定）



出典：旭橋再開発株式会社HP



◆沖縄都市モノレール延伸部（H31年春開業予定）



出典：沖縄県土木建築部
都市計画・モノレール課パンフレット

◆那覇空港第二滑走路（平成32年3月末予定）



出典：那覇空港プロジェクトHP（沖縄総合事務局）

◆MICE（2020年9月開業目標）



出典：与那原町HP

沖縄の新たな交通環境創造会議について

沖縄の道路渋滞対策と新たな交通環境を考える有識者懇談会
 「沖縄の新たな交通環境の創造に向けて(中間とりまとめ)」(H28.11.26)
 ・交通渋滞の削減に向けた62プロジェクトについて提言



第1回 沖縄の新たな交通環境創造会議(H29.1.22)
 ・33主要プロジェクト(18テーマ)の選定
 ・ロードマップを作成することを会議で確認

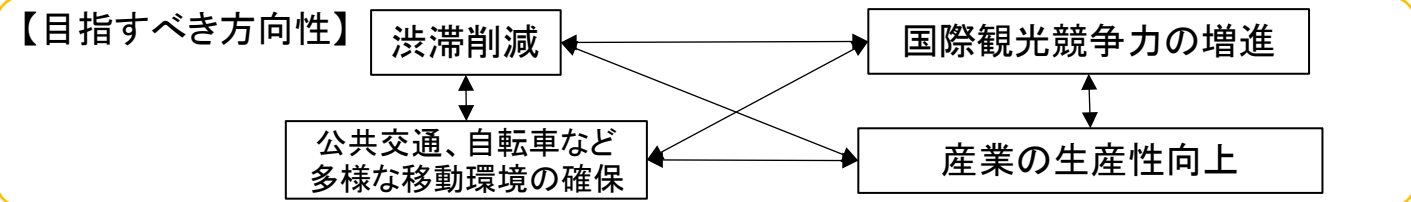


第2回 沖縄の新たな交通環境創造会議(H29.5.11)
 ・主要プロジェクトのうち、早期成果実現課題(6テーマ)を選定
 ・平成29年度の新たな取り組みについて
 ・「早期成果実現課題」の具体案を提示
 ・各プロジェクトのロードマップ策定

所属	氏名	所属	氏名
沖縄県経営者協会会長	安里 昌利	那覇市長	城間 幹子
琉球大学工学部長	有住 康則	旭橋都市再開発株式会社代表取締役社長	平良 敏昭
沖縄振興開発金融公庫理事長	川上 好久	日本旅行業協会(JATA)理事	東 良和
(一社)沖縄県バス協会会長	合田 憲夫	沖縄都市モノレール株式会社代表取締役社長	美里 義雅
沖縄県市長会会長	古謝 景春	沖縄県公安委員、元那覇市副市長	與儀 弘子
沖縄県企画部長	川満 誠一		

【検討の背景】

全国一の渋滞	極端なマイカー依存	観光客の急増	高齢化の進展
全国県庁所在地で最低 ピーク時の速度: 16km/h	自家用車依存率: 90.4% 公共交通利用率: 3.2%	H27年度: 約800万人 観光収入H24→H27で約1.5倍	今後5年間で超高齢社会に [高齢化率22.9%(H32)]



【取り組むべき施策(主な対策例)】

道路ネットワーク整備等

- ハシゴ道路ネットワーク等、幹線道路網の整備(浦添北道路、南部東道路など)
- 渋滞ボトルネック箇所における交差点改良および立体化(安次嶺、旭橋など)
- インターチェンジの整備推進(幸地)、インターチェンジの整備の検討(池武当、喜舎場など)
- 沖縄自動車道の有効活用(高速道路の利用促進に向けた割引制度の継続・拡充の検討)

地域の公共交通システムの再編・活性化

- 1)公共交通の整備・再編
 - 都市モノレール運用の効率化(増便など混雑対策の推進)
 - 基幹バス(BRT等)の導入、バス網の再編
 - 自動運転の導入(自動運転の社会実験実施)
- 2)交通結節点の整備(異なる交通モード間の接続[モーダルコネクト]の強化)
 - 各地域の結節点の創出に向けた戦略的展開
 - ・てだこ浦西駅におけるパーク&ライド駐車場整備[H30春を目標に整備中]
 - ・旭橋バスターミナルの整備[H30春を目標に整備中]
 - ・商業施設等既存施設(ライカム等)や新たな拠点を活用したバスターミナルの整備の検討
 - ・まちの拠点や道の駅で公共交通機関などを利用できる結節点の全県的な整備の検討
- 3)歩行者や自転車などにも優しい道路空間の再編・創出
 - 国際通りの再編(トランジットモールの展開やフリンジパーキングの整備、違法駐車対策など道路空間の再編の検討)、自転車利用の促進

公共交通の使いやすさの向上

- 1)使いやすさの向上に向けた情報提供システム等の整備
 - (結節点でのIoTを活用した観光客や外国人への情報提供)
- 2)ICカード等を活用した公共交通利用促進策
 - ICカード利用による各種割引等(ICカード利用による乗り継ぎ割引、時間帯割引、シニア割引など公共交通利用のインセンティブを高める仕組みの導入の検討)
- 3)観光客の公共交通活用対策
 - 交通結節点の有効活用(てだこ浦西駅でのレンタカー施設の整備等)
 - 分かりやすい情報提供、ビッグデータやIoT活用など最先端の取り組み
 - (ETC2.0等のビッグデータによる分析に基づいた道路渋滞対策やレンタカー関連の交通安全対策)
 - クルーズ船の観光客の受け入れ体制の整備
- 4)賢い道路の利用
 - 県民意識への効果的な働きかけ(企業の自家用車から公共交通への転換に対応するインセンティブ(手当等)の付与の検討)、交通需要の分散、平準化(県・市・企業への時差出勤の拡大)

【新たな交通環境の実現に向けて】

- フォローアップ体制の整備
- 新しい交通環境を導入するためのビッグデータ等を活用した調査・分析の推進
- 自動運転など全国のモデルとなる先進的取組の導入

主要施設の供用予定
H29年度：浦添北道路・臨港道路浦添線(平成29年度開通予定)
H30年度：那覇バスターミナル(平成30年開業予定)、那覇港総合物流センター(Ⅰ期)(平成30年度供用予定)
H31年度：沖縄都市モノレール延長区間(H31年春開業予定)、那覇空港第二滑走路(平成32年3月末予定)
H32年度：大型MICE施設(2020年9月開業目標)

主要プロジェクト一覧(案)

A：沖縄地方渋滞対策推進協議会
B：沖縄県TDM施策推進協議会
C：沖縄県公共交通活性化推進協議会
D：その他(関係機関で検討)

分類		★早期成果実現課題	TDM 重点	イノベ- ション	観光	提言内容	番号	検討体制 分類
①道路ネット ワーク整備等	幹線道路ネットワーク整備					2環状7放射、ハシゴ道路等幹線道路網の整備（浦添北道路、南部東道路、小禄道路など） MICE施設、クルーズターミナル等整備に対応したアクセス環境の整備	1	A
	★渋滞ボトルネック対策					渋滞ボトルネック箇所での交差点等改良、立体化（明治橋・赤嶺など）	2	A
						幸地インターチェンジの整備の推進及び沖縄市池武当・北中城村喜舎場等のインターチェンジの整備の検討	3	A
	沖縄自動車道の有効活用		●			ETC(ETC2.0)の普及、利用促進	4	A
						高速道路の利用促進に向けた割引制度の継続・拡充の検討	5	D
							6	D
②地域の公 共交通シス テムの再 編・活性化	1)公共交通の整備・再編 モノレールの運用効率化					運行間隔の短縮（増便）などの混雑対策の推進、車両数増加の検討	10	D
	★基幹バスの導入、バス網再編	●			●	那覇市・浦添市・宜野湾市・沖縄市地域公共交通総合連携計画に基づく基幹バス(BRT等)の導入に向けたバス網再編 県民及び観光客にとって使いやすくわかりやすいバス待ち環境の改善や、バス網再編の検討	11	C
				●		自動運転技術を活用したバス交通（基幹バス、コミュニティバス）の活性化を図るための社会実験の実施	12	C
							13	D
	★バス運行定時性の確保	●		●		浦添北道路・臨港道路浦添線開通にあわせた、バスレーンの延長（既存バスレーンの不連続区間、高架下等）の検討 自動運転技術を活用したバス交通（基幹バス、コミュニティバス）の活性化を図るための社会実験の実施（再掲）	14	C
				●		与那原、南風原バイパスの供用に併せたリバーシブルレーン延長の検討	13	D
							16	D
	コミュニティバスの活用	●				公共交通不便地域へのコミュニティバス、デマンドバス等導入	18	D
	2)交通結節点の整備							
	★バスターミナル等の整備	●				モノレール結節点（那覇バスターミナル、てだこ浦西駅等）の整備	19	D
		●				基幹バス結節点（コザ等）の整備に向けた検討	20	C
		●				商業施設等を活用した交通結節機能創出の検討	21	D
	各地域の結節点の創出に向けた戦略的な展開					まちの拠点（公共・公益施設）において路線バス等を利用出来るような結節点機能創出の検討	23	D
		●				県民の自家用車から公共交通への転換を促すようなインセンティブ等（料金体系から企業の通勤手当まで）の検討	24	D
	3)歩行者や自転車等にもやさしい道路空間の再編・創出							
	★道路空間の再編(国際通り)	●				国際通りのトランジットモールの新たな展開、フリンジパーキングの整備、荷さばき車両、違法駐車対策の検討	27	B
③公共交 通の使いやす さの向上			●			国際通りのトランジットモールの新たな展開、フリンジパーキングの整備、荷さばき車両、違法駐車対策の検討	27	B
			●			自転車走行環境の整備	28	B
	自転車利用の促進		●			コミュニティサイクル（レンタサイクル、シェアサイクル）の導入	29	B
			●			企業等における自転車利用環境の整備	30	D
	1)使いやすさの向上に向けた情報提供システム等の整備 ユニバーサルデザインの導入等			●	●	空港やその他の交通結節点における移動支援（訪日外国人を含む観光客への情報提供等）の導入に向けた取組	35	D
	2)ICカード等を活用した公共交通の利用促進に向けた取組							
	公共交通利用促進への活用				●	モノレール及び路線バスにおける乗り継ぎ割引、時間帯割引、全国共通ICカード利用等の公共交通利用のインセンティブを高める仕組みの拡充の検討	37	D
	3)観光客の公共交通活用対策							
				●		てだこ浦西駅等交通結節点の有効活用	40	D
	来訪者向けの自動車利用環境の整備		●		●	外国人が運転するレンタカーの交通事故増加を踏まえたETC2.0等のビックデータによる外国人の運転特性分析、道路渋滞対策・交通安全対策の実施に向けた取組	41	D
	クルーズ船の寄港時の渋滞対策				●	クルーズターミナルから観光地にかけての標識案内設置等による歩行動線整備の検討	48	D
					●	クルーズ船来港に伴う渋滞対策	49	D
	4)民間企業、県民を主体とした賢い道路利用							
	★県民意識への効果的な働きかけ	●				県民の意識に働きかける取組み（わったーバス党の活用、MM等） 民間企業の取組み支援（わったーバス党の活用等） 協力企業の取組みに対する表彰制度の創出の検討	50	B
		●					51	B
							52	D
	時空間的な需要分散、平準化（TDM）	●				国、県、市町村、民間企業への時差出勤の導入	53	B
④まちづく り等と連携 した取組み	生活道路の交通安全対策	●				生活道路の交通安全対策	61	D

ロードマップ策定経緯／目的

- 全国県庁所在地中で最も深刻と言われる沖縄の渋滞を解消するため、「沖縄の道路渋滞対策と新たな交通環境を考える有識者懇談会」の中間とりまとめにおいて、**交通渋滞の削減に向けた62プロジェクトを提言**(H28.11.26)
- 取組を推進するため「**沖縄の新たな交通環境創造会議**」を設置。
- 会議の議論を経て、沖縄局において62プロジェクトについて関係機関で取組内容とスケジュールを共有できるよう**ロードマップを策定**(概ね3年間の対策スケジュールの設定)するとともに、早期の効果発現が期待される**6つの早期成果実現課題を選定**(H29.5.12)

沖縄の道路渋滞対策と新たな交通環境を考える有識者懇談会「中間とりまとめ」

↓

沖縄の新たな交通環境創造会議

渋滞削減に向けた62プロジェクト

主要33プロジェクト
(18テーマ)

ロードマップの事例（基幹バスの導入、バス網再編）

～H28	H29		H30	H31	H32～
現況	前期	後期			
急行バス実証実験					
	基幹バス導入の検討			実施	
	●浦添北道路・臨港道路浦添線供用				
バス網の再編検討 (バス事業者との調整)				段階的なバス網再編実施	
上屋等のバス待ち環境改善(上屋整備)					

6つの早期成果実現課題

渋滞ボトルネック対策

- 主要渋滞ポイントの交通状況、周辺の用地について調査し、短期で対策できる交差点を抽出し、対策を実施、検討（45箇所（国道14、県道31））

H29予定：
◆新規に9箇所の対策に着手
◆検討中の箇所の早期の事業化に向けた検討



交通の流れが改善し
渋滞が解消

対策後

基幹バスの導入、バス網再編

- H31年度の基幹バス導入を目指し、急行バス実証実験、バス網再編に向けた検討を実施
- 自動走行技術などを活用した沖縄次世代都市交通システム（Okinawa-ART）にむけた取り組みも実施

H29予定：
◆沖縄次世代都市交通システム検討会設置を発足し、検討開始

沖縄次世代都市交通システム（Okinawa-ART）のイメージ



乗降時間短縮、乗降安全性向上
・ノンステップ
・自動走行(正番)技術 ※
・ICカード(GIGA)

安全性・快適性向上
・高度運転支援 ※
・車椅子等乗降時対応制御 ※
・最適加速制御、衝突回避制御 ※

迅速性、定時運行性の向上
・急行バス
・バス専用優先レーン
・PTPの高度化 ※
・基幹～支線バス、モジュール等のシームレスな乗り継ぎ

運行の効率化
・バス網再編(基幹、支線)

次世代都市交通システムのイメージ

待合空間のユニバーサル化
・バグレッドバス停
・情報発信(運行情報)

トータルデザイン
・バスの高い先進技術の導入
→貫いたデザインコンセプト
→まちづくりと一体となったシステムデザイン

観光客への対応
・多言語化
・観光情報発信
・案内表示対応

※は自動運転技術関連

バス運行定時性の確保

- 基幹バス区間の定時・速達性を高めるため、全区間（久茂地～コザ）にバスレーン延長拡充を実施
- H30～H31年度に第2段階バスレーン延長、H33年度以降に第3段階バスレーン延長に向けた取り組みを実施

H29予定：
◆基幹バス導入の効果についてシミュレーションにより検証
◆浦添北道路供用後の影響についても検証



第2段階
(久茂地～伊佐)
・バスレーン延長（夕方）
・専用時間以外の優先レーン化（伊佐～コザ）
・朝夕優先レーン化

第3段階
(久茂地～伊佐)
・終日専用レーン化（伊佐～コザ）
・終日優先or専用レーン化

バスターミナル等の整備促進

- 異なる交通モード間の乗り継ぎ、基幹バス及び支線バスの乗り継ぎに必要な交通結節点の整備
- モノレール延長区間でたこ浦西駅では、追加IC整備、P&R等、多様な交通モードの乗り継ぎが可能となる交通結節点を整備

H29予定：
◆商業施設等を活用した交通結節機能の創出及び交通結節点における観光客向けの移動支援情報の強化に関する実証実験等を実施



たこ浦西駅
完成イメージ

道路空間の再編（国際通り）

- 国際通りは過度な自家用車依存から脱却を図るためのシンボリックな道路空間として、歩行者や自転車などにも優しい道路空間の再編
- 創出に向けた検討を実施

H29予定：
◆荷捌き車両、違法駐車等の対策等、道路空間の環境改善に向け、H29前期に調査、対策検討、H29後期に実証実験等の実施



荷捌き車両の駐車スペースの創出イメージ

県民意識への効果的な働きかけ

- 沖縄県において、毎月1日、20日をノーマイカーデーに設定
- 那覇市において、9月16日から9月22日までをカーフリーデーの期間として設定

H29予定：
◆前期に沖縄県・沖縄総合事務局等によるWGを設置し、表彰方法、普及啓発策を検討。後期に表彰を実施。



クルマにたよりすぎないのはのまうポスターコンクール表彰式

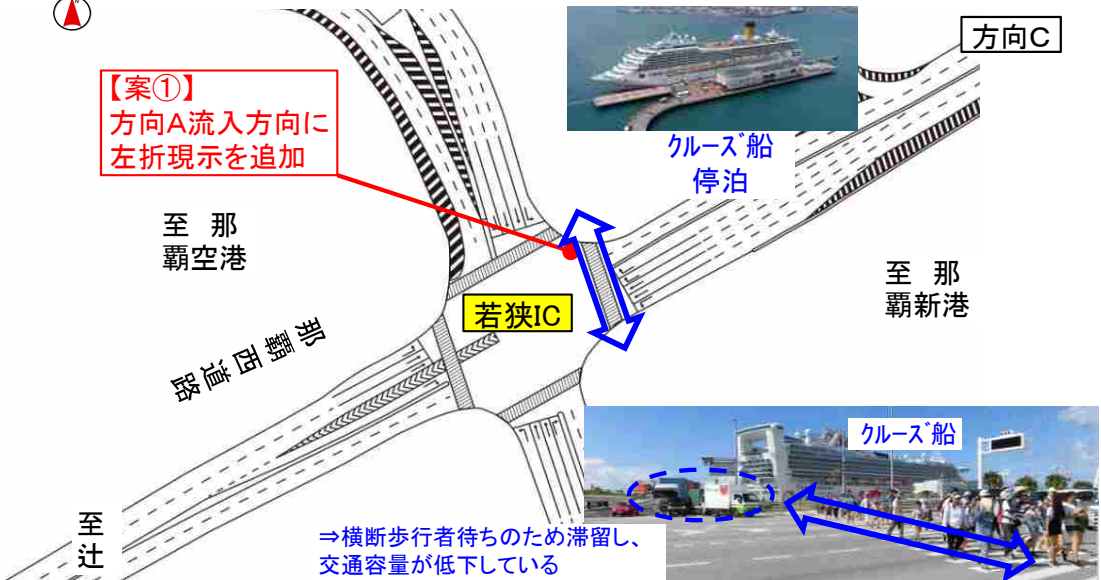
早期成果実現課題① 渋滞ボトルネック対策

- 主要渋滞ポイントの交通状況、周辺の用地について調査し、短期で対策できる交差点を抽出し、対策を実施、検討
 - 短期で対応できる場所(既存道路用地内等で交通阻害要因の除去が可能)の状況は以下のとおり
 - 国道：全14箇所のうち、28年度対応済：3箇所、事業継続中：5箇所、29年度新規：4箇所、検討中：2箇所
 - 県道：全31箇所のうち、28年度対応済：1箇所、事業継続中：3箇所、29年度新規：5箇所、検討中：22箇所
- ※箇所数は精査中
- 今後、道路利用者(トラック、バス)の意見を聴取し、短期施策として追加可能か検討
- ＜平成29年度新規事項＞
- ◆新規で9箇所の対策に着手
 - ◆検討中の箇所については、早期の事業化に向け平成29年度に検討

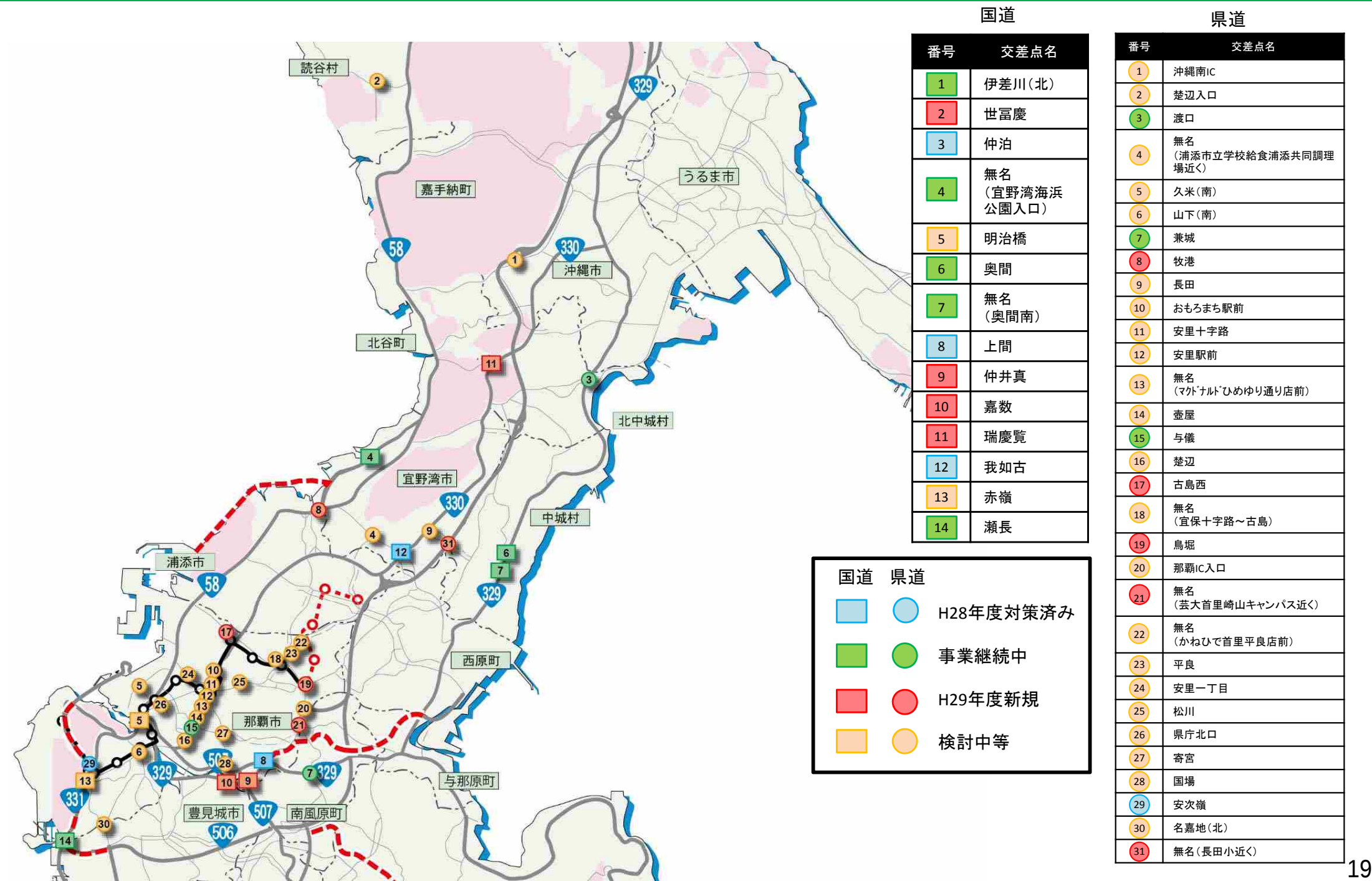
＜H28施工：安次嶺交差点＞



＜H29予定：若狭IC交差点＞



主な取組			【関連委員会】 実施主体(◎:主、○:副)	～H28 現況	H29		H30	H31	H32～	備考
					前期	後期				
早期成果実現課題	渋滞ボトルネック対策	3	渋滞ボトルネック箇所での交差点改良、立体化	【渋滞協】 ◎沖縄局 開発建設部 ◎沖縄県 土木建築部 ○関係市町村	対応済 国: 仲泊, 上間, 我如古 県: 安次嶺	H29新規 国: 仲井真, 嘉数, 瑞慶覧, 世富慶 県: 牧港, 古島西, 鳥堀, 無名(芸大首里崎山近く) 無名(長田小近く)				
					事業化検討推進 国: 明治橋, 赤嶺 県: 沖縄南ICほか21箇所					

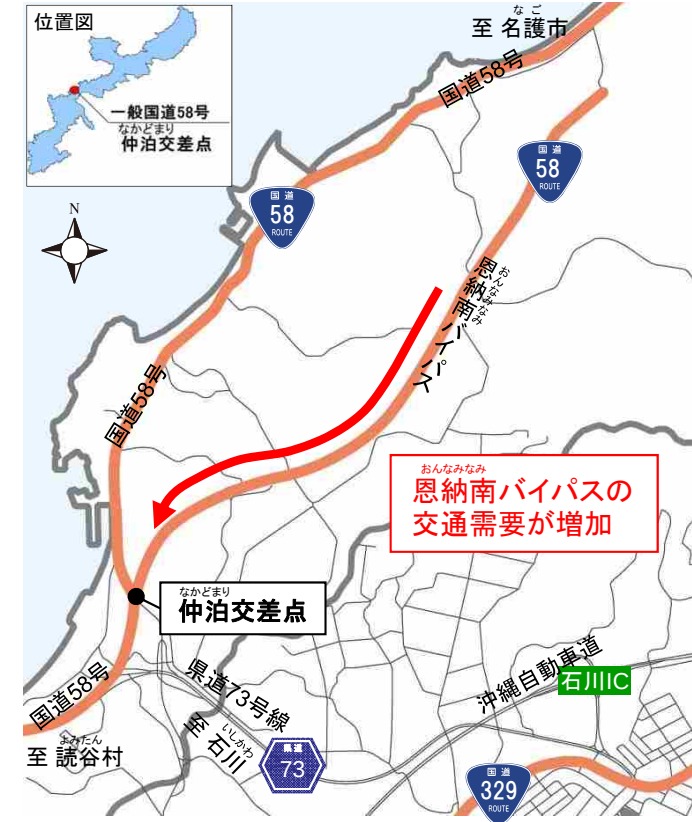


■国道58号恩納南バイパス:主要渋滞箇所(仲泊)

■車線運用の変更により 混雑緩和

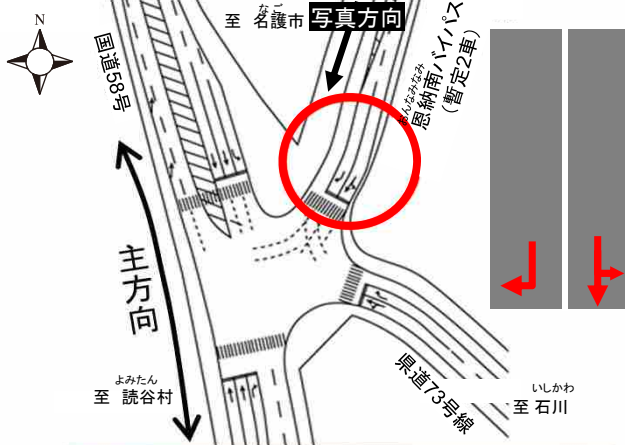
- ・交通需要の増加に伴い、恩納南バイパス終点部の仲泊交差点が混雑。
- ・交通状況(右折率)に着目し、交差点流入部の車線運用の見直しを実施。
- ・交通量が約10%増加(2,086台/12h⇒2,309台/12h)したにもかかわらず、交通混雑が解消。

○渋滞長: 対策前180m⇒対策後0m

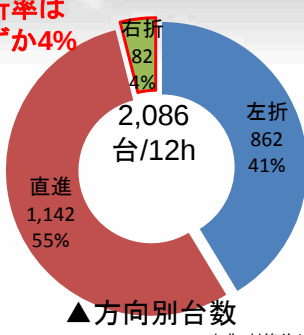


対策前の状況

○右折車が少ないが車線運用は、右折+直進左折となっており渋滞が発生。



右折率は
わずか4%



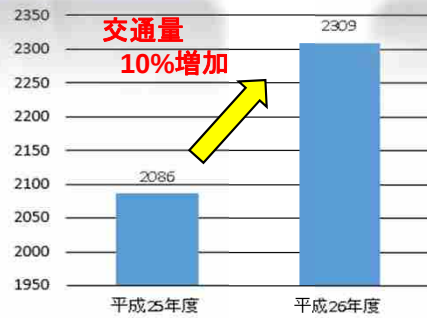
出典: 対策前 (H25.8.20)

対策内容 ※H26.3.31

○簡易的な対策として、車線運用の変更。
直進右折+左折に区画線(矢印)を変更。

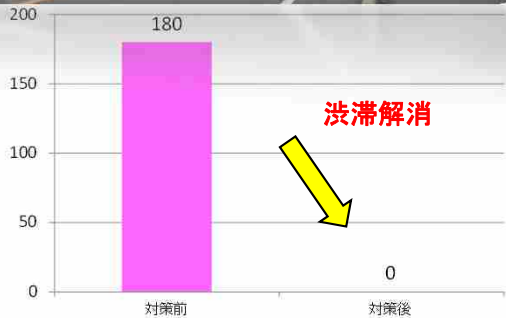


交通量
10%増加



出典: 対策前 (H25.8.20)、対策後 (H26.5.4)

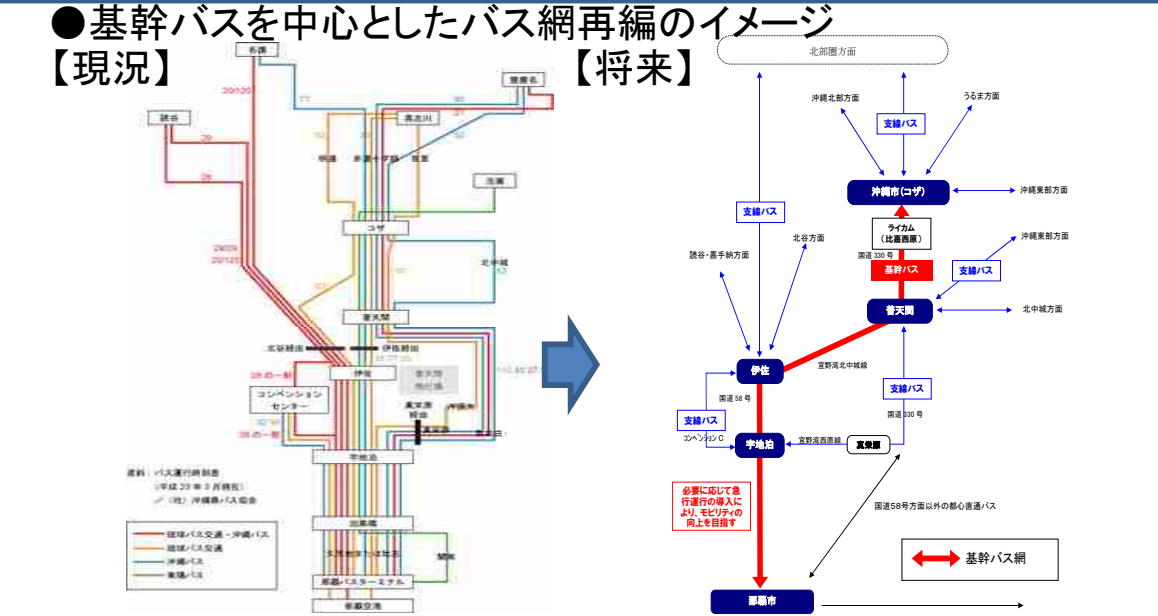
渋滞解消



出典: 対策前 (H25.8.20)、対策後 (H26.5.4)

早期成果実現課題② 基幹バスシステムの導入、バス網再編

○H31年度の基幹バス導入を目指し、急行バス実証実験、バス網再編に向けた検討を実施
○自動走行技術などを活用した沖縄次世代都市交通システム(Okinawa-ART)にむけた取り組みも実施
〈平成29年度新規事項(イノベーション調査)〉
◆前期に(仮称)沖縄次世代都市交通システム(Okinawa-ART)検討会を発足し、検討を開始



●次世代都市交通システム(ART)のイメージ

沖縄次世代都市交通システム(Okinawa-ART)のイメージ

- 安全性・快適性向上
 - 高度運転支援 ※
 - 車椅子等搭乗時対応制御 ※
 - 最適加速制御、衝突回避制御 ※
- 乗降時間短縮、乗換安全性向上
 - ノンステップ化
 - 自動走行(正着)技術 ※
 - ICカード (OKICA)
- 速達性、定時運行性の向上
 - 基幹バス
 - バス専用、優先レーン
 - PTPSの高度化 ※
 - 基幹⇄支線バス、モノレール等のシームレスな乗り継ぎ
- 待合空間のユニバーサル化
 - ハイグレードバス停
 - 情報発信(運行情報)
- 観光客への対応
 - 多言語化
 - 観光情報発信
 - 全国系に対応
- 運行の効率化
 - バス網再編(基幹、支線)
- トータルデザイン
 - PR性の高い先進技術の導入
 - 一貫したデザインメッセージ
 - まちづくりと一体となったシステムデザイン

※はバス自動運転技術関連

主な取組				【関連委員会】 実施主体(◎:主、○:副)	～H28	H29		H30	H31	H32～	備考
					現況	前期	後期				
早期成果実現課題	基幹バスの導入、バス網再編	11	那覇市・浦添市・宜野湾市・沖縄市・北中城村地域公共交通総合連携計画に基づく基幹バス(BRT 等)の導入に向けたバス網再編	【県公共交通協】 ◎沖縄県 企画部 ◎バス事業者 ○沖縄局 運輸部	急行バス実証実験				実施		
		基幹バス導入の検討									
		●浦添北道路・臨港道路浦添線供用									
		バス網の再編検討 (バス事業者との調整)				段階的なバス網再編実施					
	12	県民及び観光客にとって使いやすくなりやすいバス待ち環境の改善や、バス網再編の検討	【県公共交通協】 ◎沖縄県 企画部 ◎沖縄局 開発建設部 ◎バス事業者 ○沖縄局 運輸部	上屋等のバス待ち環境改善(上屋整備)							
13	自動運転技術を活用したバス交通(基幹バス、コミュニティバス等)の活性化を図るための社会実験の実施	◎沖縄局 開発建設部 ○関係市町村 ○バス事業者	自動走行バス実証実験				本格導入		イノベーション関連調査費(新規事業)		
					第Ⅰステップ	第Ⅰステップ	第Ⅱステップ	第Ⅲステップ			
					南城市で基本的な技術実証実験	離島で社会実証実験	高度な実証実験	より高度な実証実験			
					(仮称)沖縄次世代都市交通システム検討会を発足				基幹バス等への自動運転技術導入検討		

2

早期成果実現課題③ バス運行定時性の確保

- 基幹バス区間の定時・速達性を高めるため、全区間(久茂地～コザ)にバスレーン延長拡充を実施
 - H30～H31年度に第2段階バスレーン延長、H33年度以降に第3段階バスレーン延長に向けた取り組みを実施
- 〈平成29年度新規事項〉
- ◆国県等が連携し、基幹バス導入の効果についてシミュレーションにより検証
 - ◆浦添北道路供用後の影響についても検証



主な取組				【関連委員会】 実施主体(◎:主、○:副)	～H28	H29		H30	H31	H32～	備考
					現況	前期	後期				
早期成果実現課題	バス運行定時性の確保	14	浦添北道路・臨港道路浦添線開通にあわせた、バスレーンの延長の検討	【県公共交通協】 ◎沖縄局 開発建設部 ◎沖縄県 土木建築部 ◎沖縄県警 ◎沖縄県 企画部 ○関係市町村 ○バス事業者	(平成27年度から実施)国道58号バスレーン延長 (第2段階)伊佐⇄久茂地、朝タビーク専用レーン			伊佐⇄久茂地 朝タビーク専用レーン・終日優先レーン化		(第3段階) 終日専用レーン化	
					宜野済北中城線、国道330号 瑞慶覧⇄伊佐 朝タビーク バス優先レーン検討実施			コザ⇄伊佐 朝タビーク優先レーン		終日優先or 専用レーン化	
					シミュレーションによる検証			第二段階の効果検証			
					国道58号PTPSの車載器導入・運用 (H28車載器導入、試験運用実施)						
					●浦添北道路・臨港道路浦添線供用						

早期成果実現課題④ バスターミナル等の整備推進

- 異なる交通モード間の乗り継ぎ、基幹バス及び支線バスの乗り継ぎに必要となる交通結節点の整備
 - モノレール延長区間でだこ浦西駅では、追加IC整備、P&R等、多様な交通モードの乗り継ぎが可能となる交通結節点を整備
- 〈平成29年度新規事項(イノベーション調査)〉
- ◆商業施設等を活用した交通結節機能の創出に向けた実証実験等を実施
 - ◆交通結節点における観光客向けの移動支援情報の強化に向けた実証実験等を実施

●てだこ浦西駅周辺整備のイメージ

てだこ浦西駅 近郊イメージ



てだこ浦西駅 完成イメージ



●大型商用施設を活用した交通結節点の整備イメージ



主な取組				【関連委員会】 実施主体(◎:主、○:副)	～H28	H29		H30	H31	H32～	備考
					現況	前期	後期				
早期成果実現課題	バスターミナル等の整備	19	モノレール結節点(那覇バスターミナル、てだこ浦西駅等)の整備	◎旭橋都市再開発㈱ ○沖縄都市モノレール㈱ ○沖縄県 土木建築部 ○関係市町村	旭橋駅結節点整備			●那覇バスターミナル開業			イノベーション関連調査費 (新規事業)
					てだこ浦西駅の周辺事業(P&R等)整備			●幸地IC供用 ●P&R駐車場 ●モノレール延長部供用			
					移動支援情報提供サービスの検討	実証実験等の実施	本格導入に向けた調整				
		20	基幹バス結節点(コザ等)の整備に向けた検討	【県公共交通協】 ◎沖縄県 企画部 ◎関係市町村 ○バス事業者 ○沖縄局 開発建設部	整備内容の検討、事業者等との調整(地域、施設規模、運営方法等) ・整備(導入にあわせ段階的に整備)						
21	商業施設等を活用した交通結節機能創出の検討	◎沖縄局 運輸部 ◎民間事業者(商業施設) ◎バス事業者 ○沖縄局 開発建設部 ○沖縄県 企画部	調査検討	関係機関調整	P&R実証実験	P&R本格導入			イノベーション関連調査費 (新規事業)		
			本格導入、他商業施設への展開								

早期成果実現課題⑤ 道路空間の再編（国際通り）

- 過度な自家用車依存から脱却を図るためのシンボリックな道路空間として、国際通りで、歩行者や自転車などにも優しい道路空間の再編・創出に向けた検討を実施
 - トランジットモールの新たな展開に向けた検討を実施
 - 併せて、バス路上混雑、レンタカー流入、荷捌き車両など、渋滞緩和につながる対策の検討を実施
- 〈平成29年度新規事項（イノベーション調査）〉
- ◆荷捌き車両、違法駐車対策等、道路空間の環境改善に向け、平成29年度前期に調査・対策検討、後期に実証実験等の実施

●トランジットモールの状況



●渋滞の状況



●許可車両の停車スペース確保イメージ



主な取組				【関連委員会】 実施主体(◎:主、○:副)	～H28	H29		H30	H31	H32～	備考
					現況	前期	後期				
早期成果実現課題	道路空間の再編 (国際通り)	27	国際通りのトランジットモールの新たな展開、フリンジパークの整備、荷さばき車両、違法駐車対策の検討	【TDM協】 ◎沖縄県 土木建築部 ◎沖縄総局 ◎民間事業者(商店街振興組合連合会等) ◎沖縄県警察本部 ○那覇市 ○バス事業者 ○物流事業者	実証実験	貸し切りバス路上混雑対策実験事業 短期対策の推進			中長期対策の推進		イノベーション関連調査費 (新規事業)
					実態把握	トランジットモールの今後の在り方の検討等		改善策の推進			
						レンタカー 渋滞対策 調査対策検討	レンタカー 渋滞対策 実証実験等の実施	対策本格導入			
						荷捌き車両対策 調査対策検討	荷捌き車両対策 実証実験等の実施	対策本格導入			

2

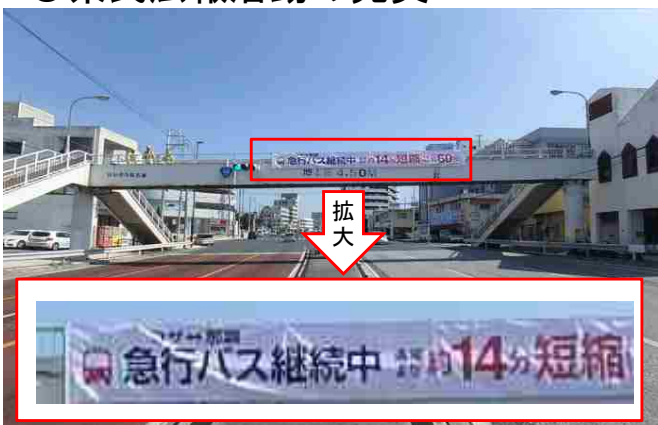
早期成果実現課題⑥ 県民意識への効果的な働きかけ

- 沖縄県子ども生活福祉部において、毎月1日、20日をノーマイカーデーに設定
 - 那覇市において、9月16日から9月22日までをカーフリーデーの期間として設定
 - 沖縄県において「わった〜バス党」法人党員及び公共交通推進等を図っている企業に対し、表彰を実施
- ＜平成29年度新規事項＞
- ◆前期に沖縄県・沖縄総合事務局等によるWGを設置し、表彰方法、普及啓発策を検討。
後期に表彰を実施

●表彰(わったーバス党)



●県民広報活動の充実



●カーフリーデー



主な取組				【関連委員会】 実施主体(◎:主、○:副)	～H28	H29		H30	H31	H32～	備考
					現況	前期	後期				
早期成果 実現課題	県民意識への効果的 な働きかけ	50	県民の意識に働きかける取組み(わったーバス党の活用、MM等)	【TDM協】 ◎沖縄県 企画部 ◎沖縄局 ◎関係市町村 ◎バス事業者 ◎民間事業者	公共交通利用 促進広報活動 実施 ノーマイカーデー、 カーフリーデー等 の実施	「わったーバス党」広報媒体を活用した県民意識への働きかけ取組強化 (SNSを活用した情報発信等)					
		51	民間企業の取組み支援(わったーバス党の活用等)	【TDM協】 ◎沖縄県 企画部 ◎沖縄局 ◎関係市町村 ◎バス事業者 ◎民間事業者	公共交通 利用促進 広報活動 実施	「わったーバス党」広報媒体を活用した民間企業のPR等取組強化 (渋滞緩和に資する民間企業の取り組み紹介等)					
		52	協力企業の取組みに対する表彰制度 の創出の検討	◎沖縄局 開発建設部 ◎沖縄県 企画部 ◎関係市町村		表彰等制度の 検討(ニーズ調 査、制度の検 討、調整等)	表彰制度の導入				